

「今、どこ?」「迎えたのむ」

一部のビジネスマンの利用から始まった携帯電話は、このように高校生の利用によって爆発的に広まりました。友達との繋がりを第一とする若者にとって『外出時に忘れてならないもののリスト』の堂々2位にランクされました。財布の次だそうです。いずれにしてもケータイによるメールの文字数はそんなに多くありません。校内での「今どこ?」「昼一緒に食べる?」「試験の予想」「遅れます」「ありがとう」「ごめんね」などほんの一言のメールで繋がりが強くなるのです。

電話で話すほどでもないが、ちょっとだけ意思の伝達をすることがケータイのメールの目的なのです。大きなメールや添付書類付きはパソコンですればよいのです。

大学歯学部の後輩は

最近の大学生は、メールをもっと強力に活用しています。熟年先生が学生のころは、ノートや過去の試験問題は一生懸命手写しか高価なコピーをしたものでした。せっかくコピーしても整理や保管に手を焼いたものです。クラブの後輩に渡ることは意外と少なく、反対に先輩たちから代々続いているものもほとんどありませんでした。

最近一部の学生は、過去の試験問題や「まとめノート」を教授や講座ごとにデータベースとして作りはじめ、問題や模範解答をどんどん蓄積させています。学生にとって、このデータベースがあれば試験もラクラク、しかもメールに添付して瞬時に友人に送ることができるのです。毎年同じような問題しか作らない教授はたまったものではありません。

実際にとあるホームページ上には、大学歯学部の学生が過去の試験問題を掲載しています。このホームページには、過去の試験問題や口頭試問の模範解答や点数配分まで詳細に書かれています。

試験中にケータイでメール交換したらこれはルー

ル違反ですが、事前のデータのやりとりは何ら問題ありません。このように学生はごく普通のこととしてメールによって情報を交換しています。そして卒業後、国家試験を受け、歯科医師になっていきます。若い歯科医師はごく普通の習慣として、メールが生活のなかに入っているのです。

さらに若い歯科医師は当然のこととして、同世代に育った若い患者さんを診察します。患者さんもパソコンやメールに関しては何ら違和感はありません。

手紙からFAXへ

数年前、歯科医師会からの通知文を会員に送るとき、全員にFAXがあると便利だということから、会員にFAXを買ってもらうよう通知を出したことがあります。また、ある都市では会員すべてに行き渡るように会の予算から捻出したところもあるそうです。電話で話すより確実に文書であるいは地図等も送れて、時間の短縮と明確な情報伝達にFAXは重宝したものでした。

しかしながら記録紙がなくなったり、必要のない情報がダイレクトメールのように送られてきたり、また大切な文書も整理しておくのが大変な労力でした。

最近パソコンをFAXとして使うこともできます(図1)。このソフトは“まいとーくFAX 2001”というものです。画面上に架空のFAXを表示して、あたか

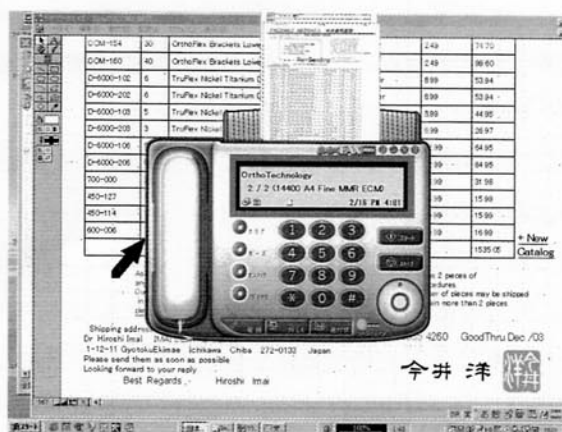


図1 画面上のFAXから注文票を送っているところ